



岐阜県感染症発生動向調査週報

Gifu Infectious Diseases Weekly Report

平成 29 年 8 月 4 日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

2017 年第 30 週
(7/24~7/30)

- 手足口病は前週よりさらに増加し、前週に引き続き県全体で警報レベルの流行となっています。過去 10 年では、最も流行した 2011 年に並んで大きな流行となっています。→トピックス
- ヘルパンギーナは急増し、関保健所管内で警報レベルの流行となっています。→トピックス

■ 定点把握対象疾患の発生動向（インフルエンザ 定点:87 か所、小児科定点:53 か所、眼科定点:11 か所、基幹定点:5 か所）

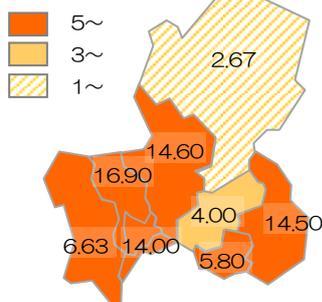
● 警報・注意報レベルの保健所がある疾患

レベル	疾患名	基準	該当保健所（定点当たり報告数）
警報レベル	手足口病	定点当たり 5 人以上 (2 人を下回るまで継続)	岐阜市 (14.00)、岐阜 (16.90)、西濃 (6.63)、関 (14.60)、東濃 (5.80)、恵那 (14.50)
	ヘルパンギーナ	定点当たり 6 人以上 (2 人を下回るまで継続)	関 (10.80)
注意報レベル	なし		—

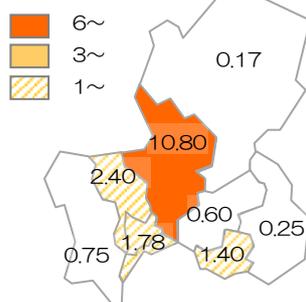
※定点当たり報告数が一定の基準を超えた場合、保健所単位で「警報・注意報レベル」を発信しています。
警報レベルは大きな流行が発生または継続していると疑われることを、注意報レベルは流行の発生前であれば今後 4 週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いこと、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指します。

● 注意したい感染症の保健所別流行状況（地図中の数値は定点当たり報告数）

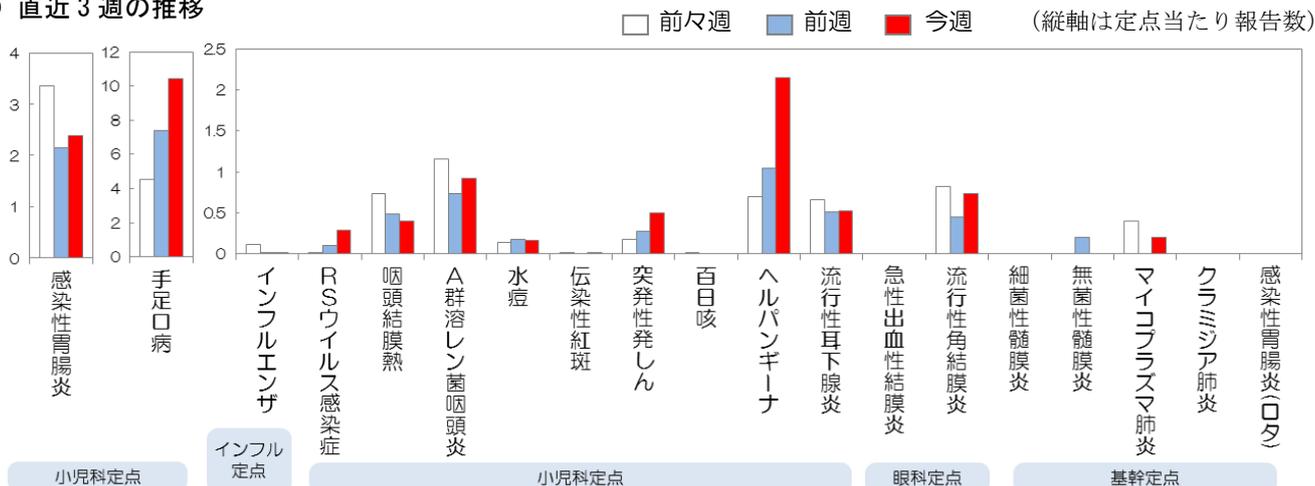
<手足口病>



<ヘルパンギーナ>



● 直近 3 週の推移



■ 全数把握対象疾患の発生動向

● 今週届出分

- 1 類感染症：なし
- 2 類感染症：結核 9 例
- 3 類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1 例
- 4 類感染症：レジオネラ症 3 例
- 5 類感染症：侵襲性肺炎球菌感染症 1 例、梅毒 3 例

全国情報は国立感染症研究所感染症疫学センターの HP をご覧ください。

感染症発生動向調査週報 (IDWR) <https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr.html>

■ トピックス

● 手足口病・ヘルパンギーナ

◇ 手足口病

今年は全国的に手足口病の大きな流行がみられており、県内でも患者が急増しています。

県内の小児科定点医療機関からの手足口病の患者報告数は、第27週以降急増し、第30週は定点当たり10.46人となっています。

過去10年では、最大の流行となった2011年と同程度の流行となっています。また、比較的大きな流行がみられた2013年、2015年と比べると、早い時期から多数の患者が報告されています。

保健所別では、県内8保健所のうち6保健所（岐阜市・岐阜・西濃・関・東濃・恵那）管内で警報レベルの定点当たり5人を超えており、うち岐阜市・岐阜・関・恵那保健所管内では定点当たり10人を超えています。

患者の年齢は5歳以下の乳幼児が大部分を占め、1歳が最も多くなっています。

◇ ヘルパンギーナ

県内の小児科定点医療機関からのヘルパンギーナの患者報告数は、第30週に急増し、定点当たり2.15人となっています。

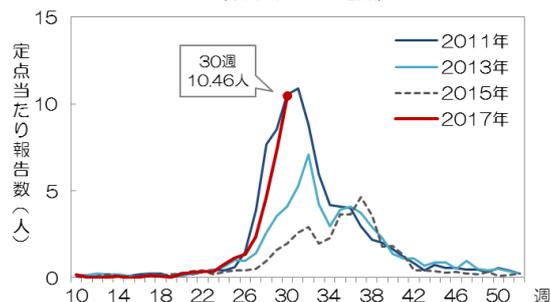
特に、関保健所管内では定点当たり10.80人と、目立って患者が多くなっています。

過去5年では、2013年と2015年に比較的大きな流行がみられており、今年はこれらの年と比べて患者数は少ないものの、地域によっては大きな流行がみられていますので、今後の動向に注意が必要です。

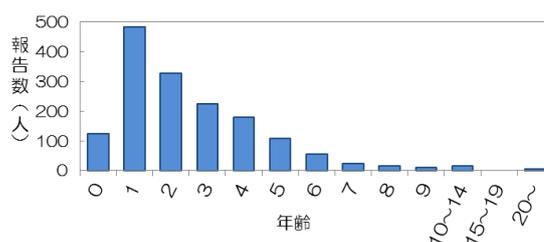
患者の年齢は、手足口病と同様に、5歳以下の乳幼児が大部分を占めています。

好発年齢の乳幼児が集まる保育所等の施設やお子さんを待つ家庭では、手洗いを励行し、おむつなどの汚物を適切に処理するなど、予防対策に努めることが大切です。

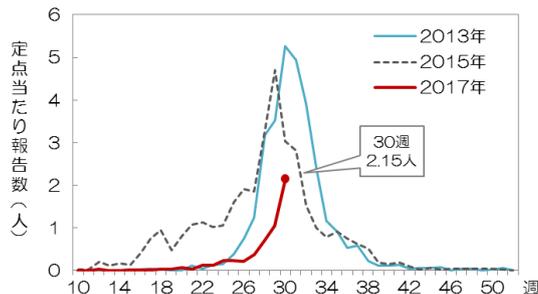
手足口病患者 週別報告数
(岐阜県: 53定点)



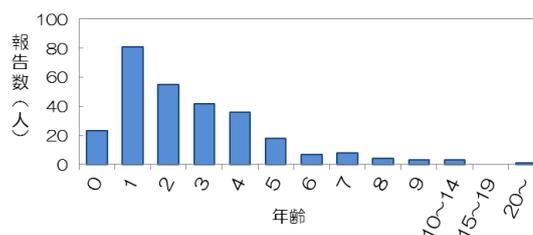
手足口病 年齢別報告数
(岐阜県: 53定点 2017年1~30週 n=1,573)



ヘルパンギーナ患者 週別報告数
(岐阜県: 53定点)



ヘルパンギーナ 年齢別報告数
(岐阜県: 53定点 2017年1~30週 n=281)



○ 手足口病・ヘルパンギーナとは

エンテロウイルスの感染による小児の夏かぜの代表的な疾患です。手足口病は口腔粘膜、手のひら、足の裏や甲に現れる水疱性の発疹を、ヘルパンギーナは発熱と口腔粘膜に現れる水疱性発疹を特徴とします。基本的には予後良好ですが、時に急性髄膜炎を、稀に急性脳炎を合併することがあります。なかでも、手足口病の原因となるエンテロウイルス71は中枢神経系合併症の発生率が他のウイルスより高いことが知られています。

○ 感染症法における取扱い

手足口病およびヘルパンギーナは、感染症法において5類感染症定点把握対象疾患に定められており、全国約3,100か所（県内53か所）の小児科定点から毎週報告がなされています。

届出基準・届出様式はこちらをご覧ください。（保健医療課 HP）

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kodomo/kenko/kansensho/11223/kansenshouhou-ki.jun.html>